



A heart of solidarity in Michinoke

こころなないろ

カリタスマチのく便り

第5号 2023年9月11日発行
編集・発行 カリタスマチのく
〒987-0901
宮城県登米市東和町米川字町裏84
E-mail: cmichinoku@gmail.com



広がる、つながる支援の輪

長い長いコロナ禍の闇がようやく明けたと思えたこの夏。猛烈な暑さ、そして局地的な大雨が日本列島を襲いました。7月15日から雨が降り続いた秋田県では秋田市の中心部で大規模な浸水被害が出ました。被災された方の支援のため、カトリック新潟教区では「カリタスマみぐらベース」が開設され、ボランティアさんを受け入れし、大きな被害があった聖霊女子短期大学付属高等学校や幼稚園をはじめ、各地で片付けや清掃などの活動が行われました。夏休みに南三陸、南相馬で活動予定だったボランティアさんが急きょ、秋田へ向かって活動をしてくださいました。活動の現場では、ボランティアさんとの再会や新たな出会いがあり、つながりが生まれました。

今号では、秋田での活動の様子、コロナ禍前のように集って楽しい時間を過ごした各地の仲間たちの活動の様子、そして少し時間が経ってしまいましたが、3月に石巻で行った「カリタスマチのくの集い」の様子をご紹介します。どうぞじっくりとご覧ください。



秋田県 大雨災害を受けて

一般社団法人カリタス南三陸 千葉 道生

今年の夏休みは久しぶりにカリタス南三陸にも高校生たちが来てくれるようになり、漁業支援など活動のマッチングをしていたところ、7月15日から秋田に降り続いた大雨災害支援のため、カトリック中央協議会「復興支援室」に設立された、緊急対応支援チーム「ERST(Emergency Response Support Team)」として、初めて秋田に派遣されることになりました。実際に現地入りし聖霊女子短期大学付属高等学校(以下、聖霊高校)及び幼稚園を視察すると「これはただごとではない」と深刻な状況が伝わってきました。

少しでも支援の輪が広がるように、南三陸にボランティアに来る予定だったカリタス女子高校の先生に「秋田に活動場所を変更してもらえませんか?」と相談すると、「高校同士助け合いできれば」という返事をすぐにいただきました。聖霊高校の校長先生もボランティア受入れを快諾してくださり、私たちは新潟教区が開設したばかりの「カリタスマみぐらベース」へ向かいました。

到着すると聖体奉仕会のシスター方が迎えてくださり、秋田の聖母の前でお祈りをしました。翌朝、聖霊高校に着くとたくさんの先生や保護者の方、卒業生、そして消毒作業が終わり、やっとボランティアに来られるようになった生徒たちが正門に集まっていました。朝礼では校長先生が今まで尽力してくださった皆様への感謝と、神奈川から来ている高校生のボランティアさんたちを紹介してくださいました。

初日は高校の下駄箱の搬入や資料室の整頓、二日目は幼稚園で下駄箱や棚の洗浄などの活動を行いました。学生や先生同士の触れ合いの場にもなり、皆さん今回の災害を自分事として捉えているようでした。それからボランティア受付の事務所となった秋田教会に宿泊させていただきながら、被災地での御用聞きや現場での活動調整を ERST メンバーのリレーで行いました。カリタスさいたまも活動場所を秋田に変更していただき、聖霊高校の授業再開の前日に駐車場やホールの洗浄を行い、翌日に授業再開のニュースを見て皆で喜びました。活動先では南三陸と一緒に活動した全国各地のボランティアさん達と偶発的な再会もあり、また秋田から南三陸に来てくれたボランティアさんも一緒に活動することができました。これからも繋がりを続けることで、いつでも助け合える仲間が増えていくことを願っています。



夏、南相馬から秋田へ

カリタス南相馬 南原 摩利

南相馬では、毎年7月の下旬に相馬野馬追祭りが開催されます。小高神社からの依頼で今年も24名のボランティアさんと共に行列のボランティアに参加しました。炎天下の中、東星学園高校の男子学生さんや足湯隊のメンバーの方がカリタス南相馬のチームとして行列に参加くださいました。

心から感謝いたします。来年度は、炎天下の開催を避けるため、5月か6月の開催となるようです。千年以上継承されている国の重要無形民俗文化財である伝統行事に、あなたも参加してみませんか？ ぜひ来年ご参加いただければと思います。



夏休み期間中に7グループの高校生及び大学生の皆さんが南相馬を訪れました。廃炉資料館や伝承館などを見学したり、被災地の現状を見ていただくことで原発被災地の現状と課題をそれぞれ汲み取ってくれたことと思います。また、東星学園高校と京都暁星高校、聖マリア学院大学の皆さんは、秋田の豪雨災害で被害が大きかった聖霊高校や個人のお宅などの災害ボランティアにも参加くださいました。家具の運び出し、泥に浸かった箇所モップがけや消毒など、暑い中の作業は大変でしたが、同じ高校生が通う校舎の復旧に向けて皆さん頑張って作業に参加してくれました。また、この時期並行して「チームふじさん」のメンバーの方も支援に入ってください大活躍でした。心から感謝いたします。聖霊高校は、8月21日から無事に新学期が始まりました。皆さんの支援活動に心から感謝いたします。



夏の教会カフェ

カリタスマヤこ 伊藤 純子

毎月1回、第3水曜日に開催している宮古教会での、カリタスマヤこ主催の「教会カフェ」ですが、5月と6月はコーヒータイムの後、2回にわたってクラフトテープを使ってかご作りに挑戦しました。



いつものように、手作りケーキとコーヒーを味わっていただいた後、利用者の方が講師となり、仮設住宅時代に盛んに作っていたというクラフトテープのかご作りに5人が挑戦しました。みんなで工夫しながら、完成させ記念写真を撮りました。

7月は、日本国中、猛暑・熱暑でエアコンのない教会でのカフェは大変でしたが、前週は予定されていた「ブルーベリー採り」が低気圧による大雨が続いて延期になったことから、リベンジの話と去年の様子を話し合いました。

8月5日のリベンジの「ブルーベリー採り」は、好天に恵まれましたが、参加者は3名だけでした。去年行ったはずなのに、場所の記憶がはっきりせず、奥地まで行き過ぎてしまう失敗をしながら到着。しかし、半月遅れての収穫は残念ながら、去年同様さっぱりでした。



そして、8月のお盆期間をさけての教会カフェ。いつもはお盆を過ぎると気候が落ち着き涼しくなるのに、なんということでしょう！暑いままです！しかも猛暑！さすがに、暑さを扇風機だけでしのぐには大変でしたが、頑張りました！冷たい飲み物がいいのかな？と思いきや、半分の方はホットコーヒーでした。手作りケーキは彩り良く、オレンジ色の人参りと緑色の小松菜の2色のシフォンケーキと、冷やした紫蘇ジュースを使ったチーズケーキとゼリー、さらに杏仁豆腐のフルーツポンチで涼を取ってもらいました。来月はお月見用のポチ袋とうさぎを折り紙で作しましょう！と約束しました。

10月には、「すすきだ音楽隊」のここにこコンサートを教会礼拝堂(聖堂)で開催予定です。実は、去年も開催したのですが、コロナ禍で演奏者4人中2人が感染、結局演奏者は2人だけとなってしまいました。去年のリベンジと捉え、今年は5人の演奏者が来てくださるそうで、とても楽しみにしています！

11月には、北海道から4年ぶりに「アンサンブルグループ奏楽(そら)」も来てくれるとのことで、9年間続けて活動された札幌カリタスの息のかかった懐かしい演奏が楽しめそうです！



ふいりあの七夕

カリタス釜石 道又 譲

ふいりあは春から新しいシスターを迎え、元気に毎日を過ごしています。

今年の夏は日本各地どこも暑さが続いていますね。こちら釜石でも暑い夏に皆さん耐えています。最近のふいりあの大きなイベントは七夕でした！毎年皆さんで飾りを作って、7月に入ると竹を持ってきて、飾りつけをしていました。今年は少し早めの6月から少しずつ飾りを皆さんで作っていき、その甲斐があつたか、今年の飾りは去年よりさらに豪華になりました！そして七夕当日、この素敵な日は皆さんで水ようかんを食べ、特別なジュースをいただきながら神父様のお話を聞いたり、皆さんで短冊を作ったり、おしゃべりしたりと楽しく過ごすことができました。



夏が本格的になって再度コロナが流行り、ふいりあは長めの夏休みがありました。お盆明けには再び元気な笑顔で皆さん会えました！まだまだ暑い日が続きますが、体調には気をつけて楽しい下半期をふいりあで過ごしていきたいです。



夏休み宿題会

カリタス大船渡ベース 菅原 圭一

大船渡ベースでは毎週、「手芸サロン」や「スマホ教室」を開催し、地域の主に高齢の方々にとても喜んでいただいています。スタッフは日々の空き時間にその準備を一生懸命進めています。8月13日(日)午前、東京在住の元スタッフが、現役の小学校の先生でリピーターのボランティアさんと連絡を取って、ベースを会場に、小学生から高校生を対象にした「夏休み宿題会」を開催してくれました。生徒たちのお母さんの協力もいただき、中高生もお互いに連絡を取り合って、7人も集まってくれました。はじめはお互い恥ずかしがっていましたが、次第に打ち解けて、リラックスした様子。みんな成長していて、とても頼もしく感じました。9時から11時までの2時間、みんな真剣に各々の宿題に取り組んでいました。ベースの初期のスタッフだったシスターがオンラインで参加してくださり、一人一人とゆっくりお話しして、将来の夢や目標などを聞いてくださいました。高校生は看護師や栄養士になる目標を話していました。ベース内に久しぶりに小・中・高校生の若い熱気があふれました。集まりを聞きつけたご近所の方々も顔を見せてくれて、「夏休み宿題会」は大成功でした。



祈りで始まるお茶会

オリーブの会 野田 和雄



7月26日、オリーブの会は亙理教会でお茶と琴の会を楽しみました。お茶と琴の会は好評なので、年に3回予定しています。お茶の始動は八木山教会の近藤さん、今日も着物姿で花や器、茶菓子の説明をしてくれます。七夕の菓子は銀河に見立てた水色の地に黄色の星が二つ載っています。彦星・織姫を連想させる美しい菓子は、とても甘く美味でした。

クリーム色の着物が映えるのは琴を奏でる我妻久美先生。なつかしいメロディが琴の響きと共に心にしみ入ります。

昼食はちらし寿司。錦糸卵の黄色と紅

ショウガがきれいです。食後は鈴木さん(八木山教会)のギターで歌います。歌うと会場がひとつになり盛り上がります。

亙理教会に集まるオリーブの会は、はじめの祈りと食前の祈りが全員に定着しています。津波被災者との絆が今でも残っているのは、多くの皆様の祈りとご支援のおかげだと感謝しています。



「おこしやす」その後

大阪教区 閑歳 真紀子

3月の「こころなないろ」に掲載いただいた、大阪府の閑歳です。私の町のお茶っこ「おこしやす」は、その後も月一回のペースで細々続けています。

去年秋に始めた時は、新たな試みの「強行突破」でしたが、今年度は町内会の年間行事に認めてもらいました。内容は、名札装着後に軽い体操、お茶を飲みながらの語り合い、クイズや間違い探し等の頭の体操です。参加者がほぼ同じなため、最近は自己紹介は行なっていません。

7月は、同じ建物で同じ曜日にお稽古をしている茶道教室の皆さんのご好意で、お薄を立てていただきました。せつかくなので、いつもの軽いお菓子のほかに、鮎の形のゼリー菓子と「二人静」と言う干菓子をきれいな懐紙に乗せ、雰囲気もそれなりに特別感を出しました。茶道の教室からは素敵な茶花の差し入れもいただきました。写真はその茶花です。

今の課題は、参加者に広がりがいいことです。町内の回覧板で宣伝しているのですが…。7月はお薄のサービスというスペシャルがありましたので、いつもより3名多く集まりましたが、8月はますます暑くなることも、お盆の時期であるということも合わせ、参加者が減るのではないかと懸念しています。

今年秋には町内で「ふれあい会」を実施する予定です。元気のある人のためには町内スタンプラリーを行います。自治会館ではお茶席、喫茶コーナー、手作り品の展示コーナーをします。その時に出品する物を、おこしやすの参加者で共同制作したいな、という声も出ています。発表の場があればヤル気が湧いてくるのではないかと、楽しい集まりだと宣伝できるのではないかと期待しています。



カリタスみちのくの集い「感謝、そしてこれから」

カリタスみちのく世話人 大河内 愛

3月18日(土)にカリタス石巻ベースにて、カリタスみちのくの集い「感謝、そしてこれから」をハイブリッド形式で行いました。コロナ禍に発足したカリタスみちのくにとって、初の対面イベントでした。チーム・カリタス仙塩、仙台教区青年会などカリタスみちのくと繋がりのある人々が石巻に集まりました。また、Zoomを使って講演のライブ配信を行いました。



初代カリタス石巻ベース長を務められた札幌教区の佐久間力神父様をお迎えし、カリタス石巻ベースの初動についてお話しいただきました。佐久間神父様は現在、カトリック中央協議会のERST(緊急対応支援チーム)のメンバーです。

佐久間神父様は東日本大震災発災直後、石巻ベースに派遣されました。毎日避難所に行き、「何かお困りごとはありますか?」「何かお手伝いはありますか?」と被災者に尋ねてまわりました。

しかし、見ず知らずの人が突然やって来て尋ねても、答えてくれる人はありませんでした。神父様は「カリタスがずっとここにいる」ことを伝え、相手が話しやすい場、話すきっかけ作りを心がけ、相手の懐に入っていきよう努めました。熱意と親しみやすさをもって根気よく通ううちに、ふとした瞬間、打ち解けた喜びがありました。

平常時、何かを始める時、Plan(計画)、Do(実行)、See(振り返り)の順で行ないますが、刻一刻と変わる現場では、まず、やりながら考える“Do, See”でフットワーク良く、即座に判断しパツと動くことが求められました。

被災者はボランティアの姿を見えています。ボランティアが一生懸命活動する姿、被災した自分たちの物を大事に丁寧に扱う姿を見て、「もう一度、生きてみようかな」と思う被災者もいました。



佐久間神父様は石巻ベースで自分が何かをしたというよりも、石巻で出会ったお一人お一人への感謝の気持ちが大きいとお話になりました。

佐久間神父様のお話の後、オンライン参加なさったガクタン司教様からメッセージをいただきました。また、仙台の青年から「震災を知らない世代だが、自分たちの住むこの仙台教区で起きた震災を知り、伝えていく使命があると感じた」という心強い感想がありました。

午後は若者のために石巻の大川小学校と南三陸の被災地見学を行いました。若者の中には、震災を知らない人も震災を体験した人もいました。初めに大川小学校へ。小学校の裏山に上りました。次に、南三陸の戸倉の高台にある五十鈴神社へ行きました。この神社はとても高い所にあり、ここまで来なければ助からなかったことに驚きました。志津川の民間の震災遺構、高野会館へ行きました。最後に、南三陸さんさん商店街へ行きました。

翌日、佐久間神父様は思い出深い石巻教会で初ミサを行い、懐かしい方々と再会しました。



今回、佐久間神父様のお話をうかがい、当時の活動の記憶や感じたことがよみがえりました。また、震災当初の様子を始めて聴いたという人たちにとって大きな学びとなりました。それだけでなく、宮城、岩手の若者が参加し、交流の場になったことが思いがけない

成果でした。カリタスみちのくの繋がりがまた一つ広がり、今後に繋がっていくように思いました。

石巻へいらして講演してくださった佐久間神父様、ご参加くださった皆様、オンライン参加のガクタン司教様、そして、会場提供してくださったカリタス石巻・心の港に感謝申し上げます。



みちのく掲示板

9月30日開催 カリタスみちのくの集い

ともに歩もう～神の民の集い in 福島

2023年9月30日の夕、バチカン市国のサンピエトロ広場でエキシメニカルな祈りの集いが開催されます。この祈りの集いは、10月4日から開催される世界代表司教会議(シノドス)に先立ち、世界中の連帯と一致と平和を願い開催されるものです。カリタスみちのくも、「ともに歩む教会」として、この集いに連帯して福島から祈りをささげます。宗教・宗派を問わず、どなたでもご参加いただけます。

日時: 2023年9月30日(土) 午後4時30分～5時30分

会場: カトリック原町教会

主催: カリタスみちのく 協力: カトリック仙台司教区

この集いに先立ち、同日の日中は福島県浜通り、原発被災地の現地見学を行います。こちらは、事前のお申し込みが必要です。

お問い合わせはカリタスみちのくのメールアドレスへお願いします。

cmichinoku@gmail.com

次号(2024年3月11日発行)で、この集いの様子をご紹介する予定です。

カリタスみちのく ご支援のお願い

カリタスみちのくでは、東日本大震災被災地支援をきっかけに始まったつながりを今後も絶やさず、新たな輪を広げていくために、メーリングリスト、SNS、ニューズレターでの情報発信、集いの開催を中心に活動を続けていきます。今後の活動継続のため、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

口座名称 カリタスみちのく

ゆうちょ銀行〇一九(ゼロイチク)店 当座0636160

郵便振替口座 口座番号 00180-3-636160